スーパーマーケット販売統計調査資料

2019 年 7 月実績 速報版（パネル 270）
6 月実績 確報版（パネル 270）
2019 年上半期実績 確報版

（2019 年 8 月 21 日公表）

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更（275 社→270 社）

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版：毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版：速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店：前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店：前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業（DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等）

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2019年8月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2019年7月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	89,182,783	100.0%	96.9%	95.8%
食品合計	80,576,564	90.3%	97.1%	96.0%
生鮮３部門合計	29,938,616	33.6%	97.8%	96.5%
青果	11,977,544	13.4%	96.1%	95.0%
水産	7,906,990	8.9%	98.5%	97.2%
畜産	10,054,082	11.3%	99.2%	97.8%
惣菜	9,430,778	10.6%	99.9%	98.5%
日配	17,564,113	19.7%	96.2%	95.0%
一般食品	23,643,057	26.5%	96.0%	95.1%
非食品	6,199,621	7.0%	94.7%	94.0%
その他	2,406,647	2.7%	97.7%	97.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,313,721	43	97.0%	95.7%
関東地方	33,166,159	73	96.8%	95.8%
中部地方	10,853,249	53	97.5%	96.0%
近畿地方	19,016,497	44	97.7%	96.2%
中国・四国地方	8,863,986	34	93.7%	93.7%
九州・沖縄地方	4,969,171	23	98.3%	96.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	629,074	46	90.6%	92.0%
4～10店舗	4,200,480	78	94.2%	94.8%
11～25店舗	9,326,194	57	96.1%	95.5%
26～50店舗	16,188,745	45	97.1%	95.9%
51店舗以上	58,838,291	44	97.2%	95.9%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	86,538,789
総店舗数（店舗）	7,986	店舗平均月商（万円）	11,167
総売場面積（㎡）	13,300,709	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2019年8月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2019年6月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	88,454,241	100.0%	100.8%	99.7%
食品合計	79,946,226	90.4%	101.0%	99.9%
生鮮３部門合計	29,864,683	33.8%	101.5%	100.2%
青果	12,188,395	13.8%	101.3%	100.2%
水産	7,501,764	8.5%	102.0%	100.6%
畜産	10,174,524	11.5%	101.3%	100.0%
惣菜	8,996,963	10.2%	102.3%	100.8%
日配	17,575,769	19.9%	101.3%	100.1%
一般食品	23,508,811	26.6%	99.8%	99.0%
非食品	6,167,139	7.0%	98.6%	98.3%
その他	2,340,927	2.6%	99.8%	99.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	12,104,322	43	100.6%	99.6%
関東地方	32,837,664	73	101.1%	100.0%
中部地方	10,891,856	53	101.8%	100.2%
近畿地方	19,051,401	44	99.8%	98.6%
中国・四国地方	8,821,351	34	102.2%	101.1%
九州・沖縄地方	4,747,648	23	99.1%	99.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	621,121	45	95.9%	95.9%
4～10店舗	4,048,570	77	97.5%	98.5%
11～25店舗	9,220,376	58	100.0%	99.9%
26～50店舗	16,149,767	46	100.9%	99.7%
51店舗以上	58,414,408	44	101.1%	99.9%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	85,891,965
総店舗数（店舗）	7,977	店舗平均月商（万円）	11,089
総売場面積（㎡）	13,278,311	売場１㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2019年8月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2019年上半期実績（パネル270）確報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年同期比（全店）	前年同期比（既存店）
総売上高	523,399,582	100.0%	100.0%	98.9%
食品合計	468,879,147	89.6%	100.2%	99.1%
生鮮３部門合計	177,855,672	34.0%	99.6%	98.4%
青果	71,878,649	13.7%	98.0%	96.9%
水産	45,625,806	8.7%	100.9%	99.6%
畜産	60,351,218	11.5%	100.5%	99.2%
惣菜	53,482,757	10.2%	101.7%	100.3%
日配	101,955,298	19.5%	100.2%	99.0%
一般食品	135,585,420	25.9%	100.4%	99.5%
非食品	37,265,047	7.1%	98.1%	97.8%
その他	17,255,388	3.3%	100.4%	99.2%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同期比（全店）	前年同期比（既存店）
北海道・東北地方	72,012,721	43	99.9%	99.0%
関東地方	194,005,589	73	100.4%	99.2%
中部地方	64,392,876	53	100.2%	99.1%
近畿地方	112,917,658	44	99.3%	98.4%
中国・四国地方	51,909,137	34	100.0%	98.9%
九州・沖縄地方	28,161,601	23	99.0%	98.9%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同期比（全店）	前年同期比（既存店）
1～3店舗	3,695,219	45	93.9%	94.8%
4～10店舗	22,749,307	73	98.2%	98.2%
11～25店舗	57,278,451	63	98.8%	98.7%
26～50店舗	94,137,851	45	99.9%	99.0%
51店舗以上	345,538,753	44	100.3%	99.0%

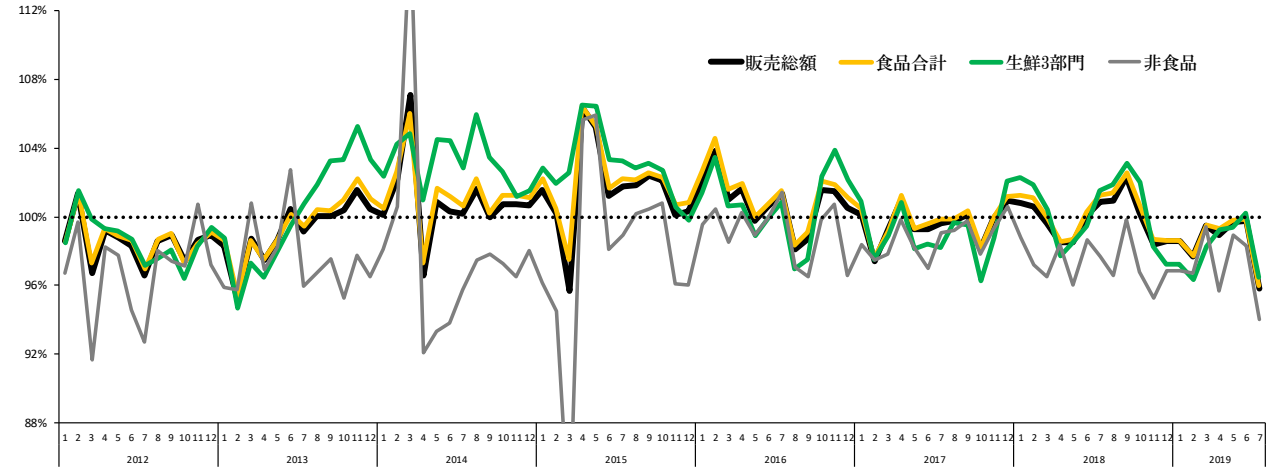
※保有店舗数カテゴリーは2019年1月時点での保有店舗数による分類

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	507,887,386

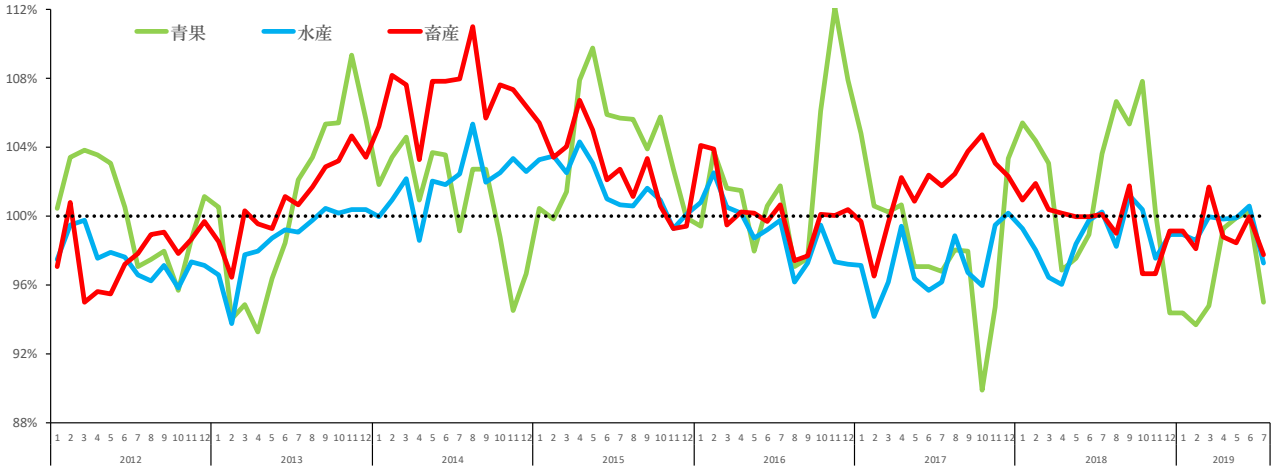
※売上高は税抜金額
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計（パネル270） 既存店前年同月比推移　2012年1月～

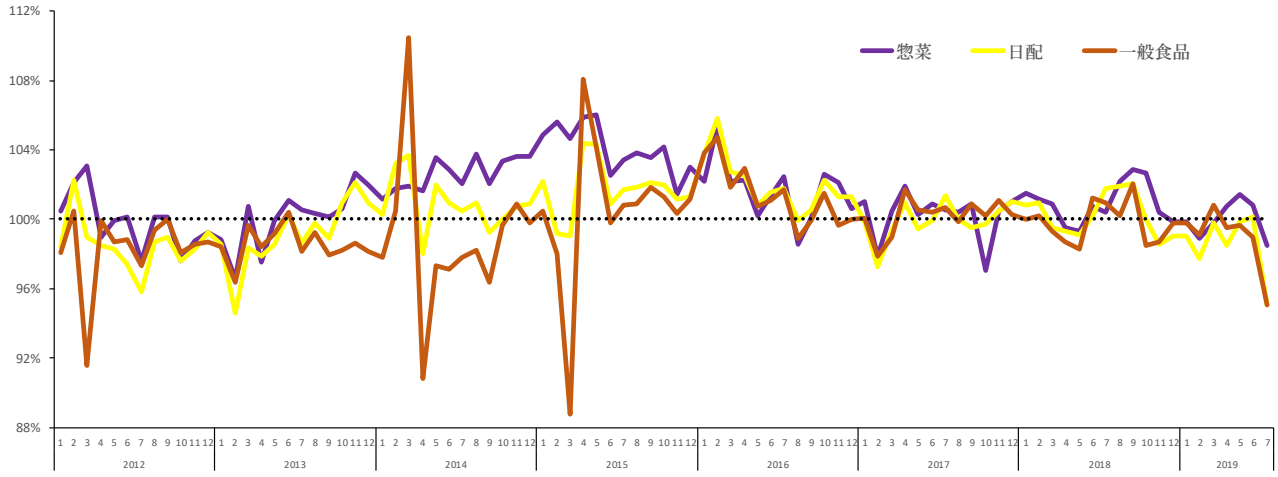
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年7月実績は速報値

2019年7月エリア別気候状況

7月気温の特徴：東・西日本の気温は低かった

上旬：東・西日本で低く、北日本と沖縄・奄美で平年並だった。

中旬：東・西日本で低く、北日本、沖縄・奄美で平年並だった。

下旬：北日本ではかなり高く、東日本、沖縄・奄美で高かった。

2018年7月との比較：北海道地方を除き、上旬から中旬は前年よりかなり低い気温となった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2019年7月			2018年7月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	-0.2	0.9	2.6	-0.8	0.6	2.3	0.6	0.3	0.3
東北地方	-0.3	-0.2	2.0	2.2	3.1	2.6	-2.5	-3.3	-0.6
関東甲信地方	-1.2	-1.6	1.1	2.7	4.1	2.2	-3.9	-5.7	-1.1
北陸地方	0.4	-0.6	1.8	2.5	3.4	3.0	-2.1	-4.0	-1.2
東海地方	-0.7	-1.8	0.9	1.9	3.6	2.2	-2.6	-5.4	-1.3
近畿地方	-0.6	-1.5	0.8	1.6	3.4	2.1	-2.2	-4.9	-1.3
中国地方	-0.4	-1.4	1.1	0.9	3.1	2.5	-1.3	-4.5	-1.4
四国地方	-1.2	-1.5	0.6	0.8	2.1	1.2	-2.0	-3.6	-0.6
九州北部	-1.2	-1.6	0.6	0.5	2.4	1.7	-1.7	-4.0	-1.1
九州南部・奄美地方	-1.5	-0.8	0.2	0.0	0.3	0.3	-1.5	-1.1	-0.1

平年差
+2℃以上　−2℃以上
+1℃以上　−1℃以上

前年差
+2℃以上　−2℃以上
+1℃以上　−1℃以上

7月日照時間の特徴：全国的に日照時間は少なく、西日本太平洋側ではかなり少なかった

上旬：東日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。

中旬：東・西日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり少なく、北日本太平洋側、東・西日本日本海側で少なかった。

下旬：北・西日本日本海側、東日本太平洋側で少なかった。

2018年7月との比較：全国的に少なく、特に中旬は前年に比べかなり少なくなった。

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2019年7月			2018年7月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	100	71	92	30	93	153	70	-22	-61
東北地方	119	89	89	100	131	137	19	-42	-48
関東甲信地方	31	36	91	145	195	134	-114	-159	-43
北陸地方	105	54	96	139	241	166	-34	-187	-70
東海地方	44	31	90	118	188	129	-74	-157	-39
近畿地方	52	48	89	97	208	132	-45	-160	-43
中国地方	76	72	93	82	227	140	-6	-155	-47
四国地方	48	46	94	63	181	100	-15	-135	-6
九州北部	31	36	91	83	222	118	-52	-186	-27
九州南部・奄美地方	52	47	106	54	145	79	-2	-98	27

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
+50%以上　−50%以下
+25～49%　−25～-49%

7月降水量の特徴：東・西日本太平洋側の降水量はかなり多かった

上旬：沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本太平洋側で多かった。一方、北日本と東日本日本海側で少なかった。

中旬：西日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり多く、東日本太平洋側、西日本日本海側で多かった。一方、北・東日本日本海側で少なかった。

下旬：東日本太平洋側で多かった。一方、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。

2018年7月との比較：上旬はかなり少なかったが、中旬以降はかなり多くなった地域があった。

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差（%）		
	2019年7月			2018年7月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北海道地方	44	76	69	485	118	10	-441	-42	59
東北地方	47	56	98	111	43	26	-64	13	72
関東甲信地方	131	156	119	118	25	149	13	131	-30
北陸地方	27	51	88	203	3	0	-176	48	88
東海地方	140	191	158	220	6	86	-80	185	72
近畿地方	87	191	177	563	1	116	-476	190	61
中国地方	26	128	75	359	0	26	-333	128	49
四国地方	182	305	31	453	1	136	-271	304	-105
九州北部	86	202	133	263	0	40	-177	202	93
九州南部・奄美地方	374	199	73	268	12	157	106	187	-84

平年差
平年比150%以上　平年比50%以下
平年比125%～149%　平年比51%～75%

前年差
+50%以上　−50%以下
+25～49%　−25～-49%

気象庁ホームページ・報道発表資料「7月の気候」参照
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均
スーパーマーケット統計事務局作成

（参考）今年と昨年の梅雨入り、梅雨明け時期の比較

令和元年は昨年と比べ、梅雨入り、梅雨明けの時期、梅雨期間に大きな違いがあった。
昨年と比較した梅雨の特徴は、地域により大きく３つに分けることができる。

①九州や沖縄地方の梅雨入りは早く、梅雨明けが遅かった。結果、梅雨時期が 20 日以上長くなった。
②西日本では、梅雨入りが 3 週間程度遅かったが、梅雨明けも 2 週間程度遅くなった。そのため、梅雨時期は 1 週間程度短くなった。
③東日本では、梅雨入りは昨年とほぼ変わらなかったものの、梅雨明けの時期が前年よりかなり遅れた地域が多かった。そのため、梅雨期間は 3 週間程度、関東では 1 ヵ月程度も長くなった。

	梅雨入り			梅雨明け			梅雨期間（昨年差）
地方	令和元年	昨年	昨年差	令和元年	昨年	昨年差	
沖縄	5月16日ごろ	6月1日ごろ	16日早い	6月29日ごろ	6月23日ごろ	6日遅い	+22日
奄美	5月14日ごろ	5月27日ごろ	13日早い	7月13日ごろ	6月26日ごろ	17日遅い	+30日
九州南部	5月31日ごろ	6月5日ごろ	5日早い	7月24日ごろ	7月9日ごろ	15日遅い	+20日
九州北部	6月26日ごろ	6月5日ごろ	21日遅い	7月24日ごろ	7月9日ごろ	15日遅い	-7日
四国	6月26日ごろ	6月5日ごろ	21日遅い	7月24日ごろ	7月9日ごろ	15日遅い	-7日
中国	6月26日ごろ	6月5日ごろ	21日遅い	7月25日ごろ	7月9日ごろ	16日遅い	-5日
近畿	6月26日ごろ	6月5日ごろ	21日遅い	7月24日ごろ	7月9日ごろ	15日遅い	-6日
東海	6月7日ごろ	6月5日ごろ	2日遅い	7月28日ごろ	7月9日ごろ	19日遅い	+17日
関東甲信	6月7日ごろ	6月6日ごろ	1日遅い	7月29日ごろ	6月29日ごろ	30日遅い	+29日
北陸	6月7日ごろ	6月9日ごろ	2日早い	7月24日ごろ	7月9日ごろ	15日遅い	+17日
東北南部	6月7日ごろ	6月10日ごろ	3日早い	7月30日ごろ	7月14日ごろ	16日遅い	+19日
東北北部	6月15日ごろ	6月11日ごろ	4日遅い	7月31日ごろ	7月19日ごろ	12日遅い	+8日

出典：気象庁「梅雨入りと梅雨明け（確定値）」

スーパーマーケット景気動向調査

2019 年 8 月調査結果（7 月実績）
(2019 年 8 月 21 日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を 100 とした当月の値を調査　※2014 年 4 月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感 DI（Diffusion Index）の算出方法

回答構成比（%）に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

8 月調査（7 月実績）結果概況

景気判断 DI は現状・見通しともに大幅な悪化

7 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は、前月から-5.7 の 38.1、見通し判断は前月から-4.6 の 37.0 となり、共に大幅に悪化し、現状判断 DI は過去最低を記録した。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI 共に大きなマイナスとなった。前年との梅雨時期がずれたことによる影響で夏物商材を中心に不振となったことで客単価 DI がマイナス、降雨の日が多かったことや日曜日が一日少ない曜日巡りにより、来客数 DI がマイナス幅を拡大したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、前年猛暑との反動で夏物商材不振の影響は大きく、惣菜 DI を除き、DI は二桁のマイナスを記録した。果物類不振の影響を受けた青果 DI や、外気温の影響が大きい日配 DI や飲料不振の影響を受けた一般食品 DI のマイナス幅が多くなっている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれの DI も悪化をみせており、なかでも中核店舗景気判断 DI の悪化幅が大きい。長期傾向でみても、はっきりと下向きのトレンドになっている。（長期傾向については p 11 参照）

前年が猛暑となり夏物商材が好調となった反動も加わり、7 月は売上だけでなく、マインドも大幅に悪化する結果となった。近年は、天候などの外的要因の不確実性が高まっているが、夏に気温が低下した際の消費者の食品購入状況を分析して対応した店舗もみられた。気温の低下により、家庭内調理機会が増加することを見越し、調味料の販促を強化して売上を確保した例もみられた。消費税率引き上げを控え、消費にも不安が高まるなかで、天候要因をプラス転換につなげる取り組みが求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３８．１（－５．７）	当月：４０．２（－２．９）	当月：３８．６（－１．５）	当月：４２．３（－２．２）
前月：４３．８	前月：４３．１	前月：４０．１	前月：４４．５

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：３７．０（－４．６）	当月：３９．６（－２．６）	当月：３８．３（－１．１）	当月：４１．１（－２．６）
前月：４１．６	前月：４２．２	前月：３９．４	前月：４３．７

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI
当月：－２３．５（－１６．２）	当月：－７．４（－７．４）	当月：－１９．４（－９．２）
前月：－７．３	前月：０．０	前月：－１０．２

収益DI	販売価格DI	生鮮品仕入原価DI	食品仕入原価DI
当月：－１８．１（－１３．９）	当月：１．７（－２．２）	当月：０．２（－１．９）	当月：２．８（－２．０）
前月：－４．２	前月：３．９	前月：２．１	前月：４．８

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI
当月：－２１．５（－１９．０）	当月：－１１．０（－１０．７）	当月：－１５．３（－７．５）
前月：－２．５	前月：－０．３	前月：－７．８

惣菜DI	日配DI	一般食品DI	非食品DI
当月：－７．０（－１０．６）	当月：－２１．５（－１７．０）	当月：－２３．９（－１５．０）	当月：－１５．７（－５．９）
前月：３．６	前月：－４．５	前月：－８．９	前月：－９．８

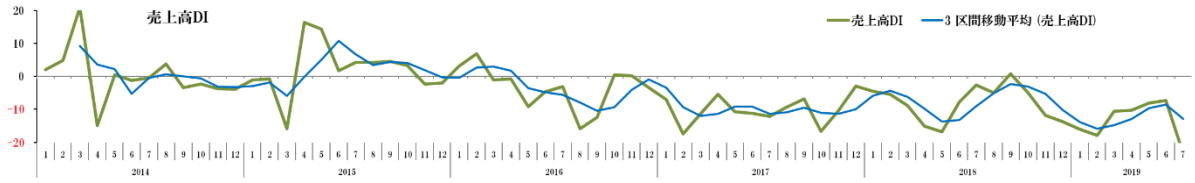
※DI 値は前年同月との比較／（）内は前月 DI からの変化

結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2014 年 1 月～）

1.　売上高 DI

大幅なマイナスとなり、2011 年 4 月の調査開始以来の最小値を記録

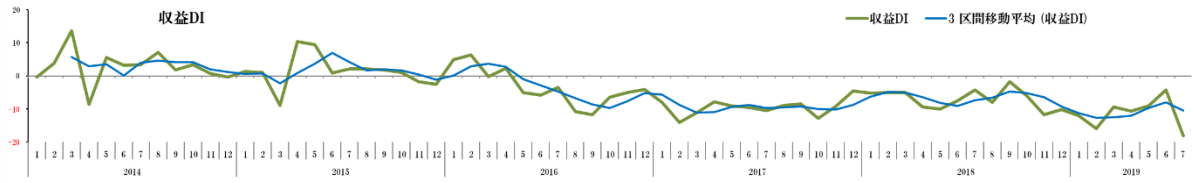
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	9.9	35.6	29.8	23.0	1.6	-7.3
売上高（当月）	**28.9**	**46.4**	**15.7**	**7.8**	**1.2**	**-23.5**



2.　収益 DI

大幅なマイナスとなり、調査開始以来の最小水準まで低下

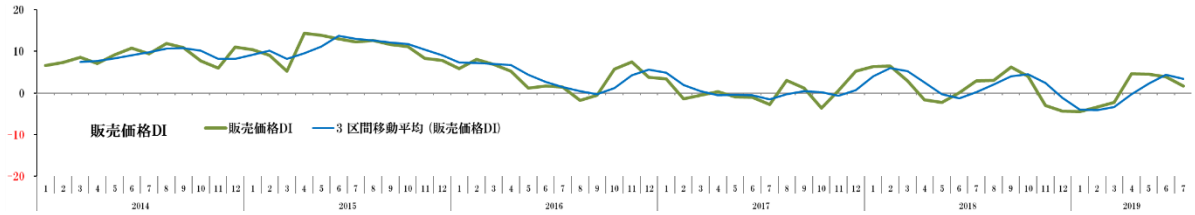
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	7.4	33.3	34.4	18.5	6.3	-4.2
収益（当月）	**19.6**	**47.2**	**20.2**	**11.7**	**1.2**	**-18.1**



3.　販売価格 DI

わずかながらプラス水準を維持

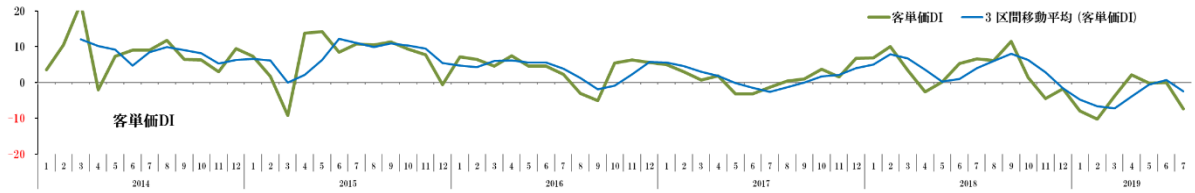
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	12.6	59.7	27.2	0.5	3.9
販売価格（当月）	**1.2**	**15.9**	**57.9**	**25.0**	**0.0**	**1.7**



4.　客単価 DI

当月低下し再びマイナス圏

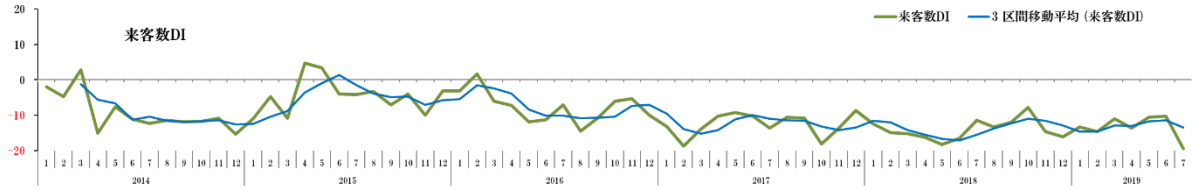
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.6	25.3	44.7	28.4	0.0	0.0
客単価（当月）	**2.4**	**39.8**	**42.8**	**15.1**	**0.0**	**-7.4**



5.　来客数 DI

当月マイナス幅を拡大し、二桁水準での低迷が続く

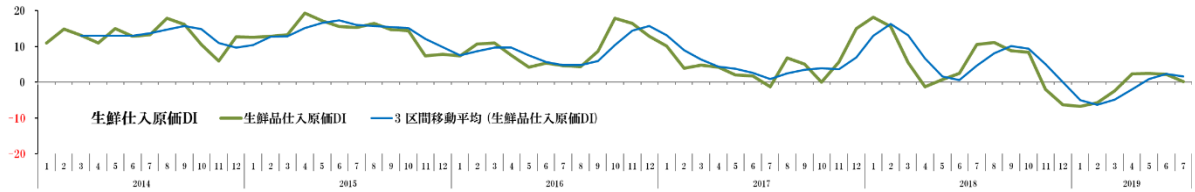
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	9.4	41.4	31.4	16.2	1.6	-10.2
来客数（当月）	**20.5**	**47.0**	**22.9**	**9.0**	**0.6**	**-19.4**



6.　生鮮仕入原価 DI

プラス幅縮小も、4 か月連続でプラス圏を維持

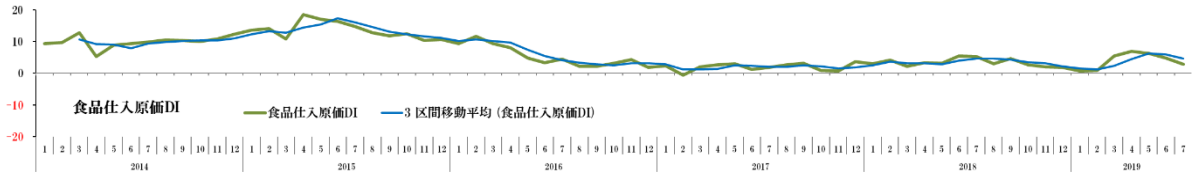
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	2.1	13.8	58.0	25.5	0.5	2.1
生鮮仕入原価（当月）	**4.3**	**19.1**	**48.8**	**27.2**	**0.6**	**0.2**



7.　食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	2.6	13.2	48.1	34.4	1.6	4.8
食品仕入原価（当月）	**5.5**	**13.5**	**45.4**	**35.6**	**0.0**	**2.8**

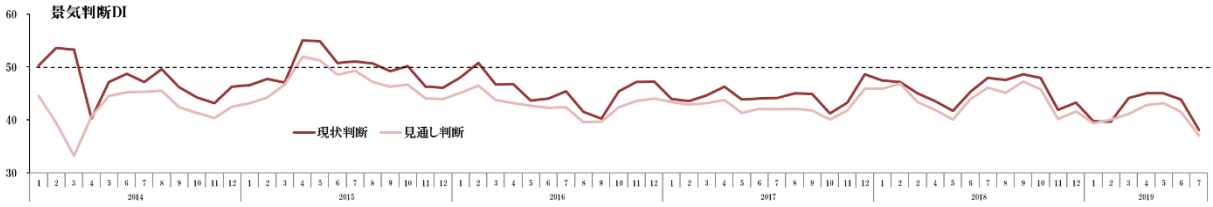


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しとも大幅に悪化し、現状判断は 2011 年 4 月の調査開始以来最低値を更新

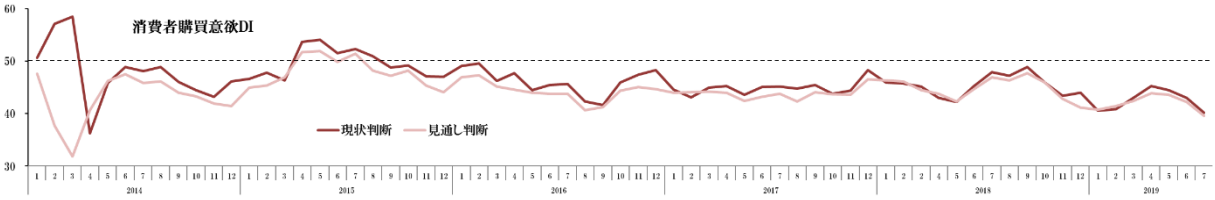
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	3.7	26.2	61.3	8.9	0.0	43.8
【現状】景気判断（当月）	**6.0**	**40.4**	**48.8**	**4.8**	**0.0**	**38.1**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	5.8	30.0	56.3	7.9	0.0	41.6
【見通し】景気判断（当月）	**9.6**	**36.7**	**49.4**	**4.2**	**0.0**	**37.0**



2． 消費者購買意欲 DI

現状、見通しともに悪化をみせる

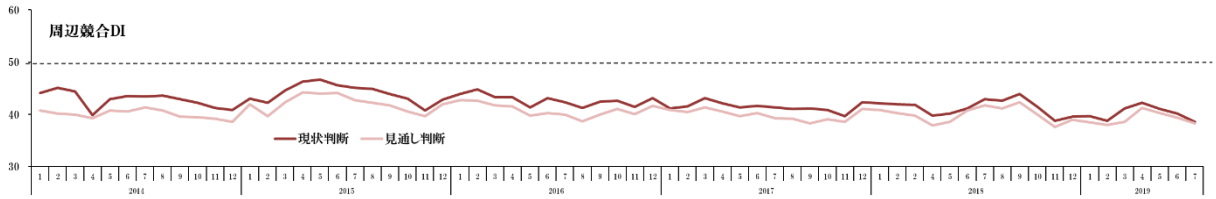
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	2.6	29.3	61.3	6.8	0.0	43.1
【現状】購買意欲（当月）	**2.4**	**39.2**	**53.6**	**4.8**	**0.0**	**40.2**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	3.2	30.5	60.5	5.8	0.0	42.2
【見通し】購買意欲（当月）	**3.6**	**38.0**	**54.8**	**3.6**	**0.0**	**39.6**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも小幅に悪化をみせる

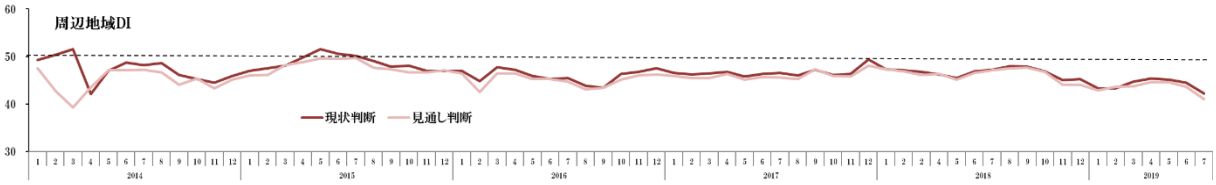
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	6.8	29.5	60.0	3.7	0.0	40.1
【現状】競合状況（当月）	**7.2**	**33.7**	**56.6**	**2.4**	**0.0**	**38.6**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	7.9	29.6	59.3	3.2	0.0	39.4
【見通し】競合状況（当月）	**8.4**	**32.5**	**56.6**	**2.4**	**0.0**	**38.3**



4.　中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状、見通しともに悪化をみせる

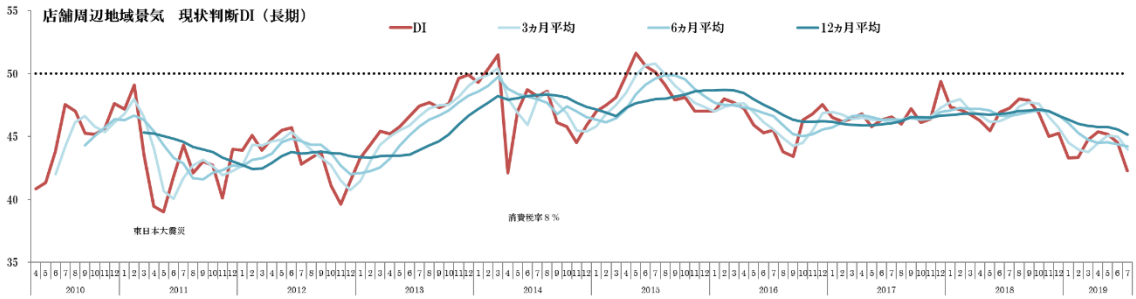
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	1.0	21.5	75.9	1.6	0.0	44.5
【現状】地域景気（当月）	**1.2**	**30.3**	**66.7**	**1.8**	**0.0**	**42.3**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	1.1	24.7	72.6	1.6	0.0	43.7
【見通し】地域景気（当月）	**2.4**	**32.1**	**64.2**	**1.2**	**0.0**	**41.1**

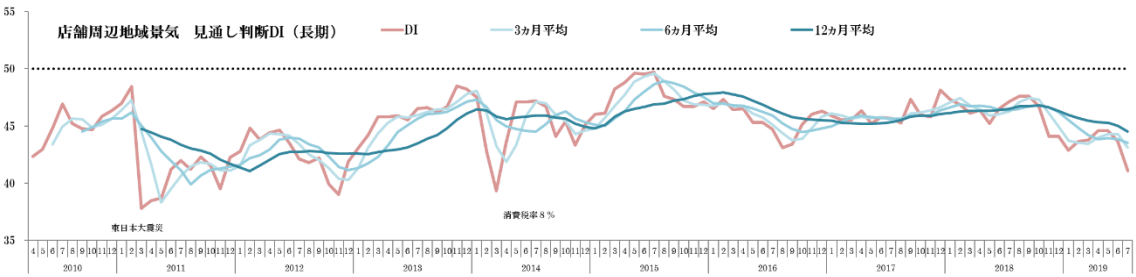


・中核店舗周辺地域景気判断 DI　長期傾向（2010 年 4 月～）

周辺地域景気判断 DI は、2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12 年 11 月から 16 ヵ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後 15 ヵ月間にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。

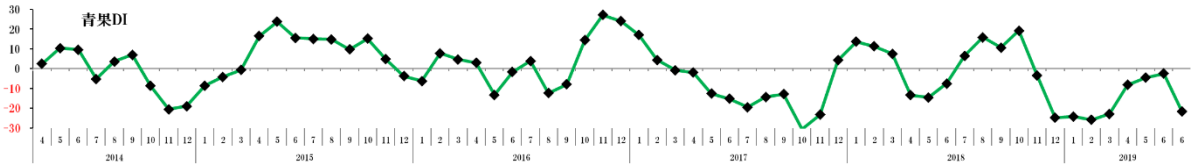




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-21.5（かなり不調）

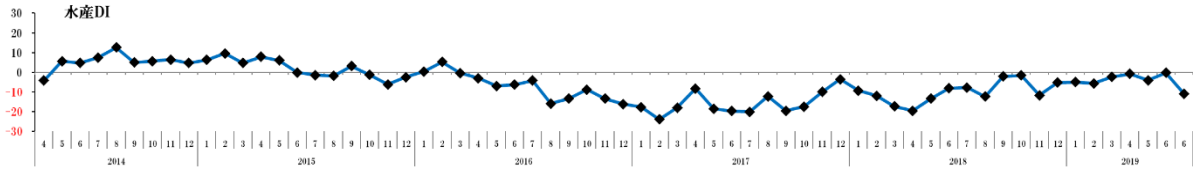
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	8.3	31.1	27.2	28.9	4.4	-2.5
青果（当月）	**25.8**	**44.7**	**20.1**	**8.8**	**0.6**	**-21.5**



前年の猛暑から一転して気温が低く、レタスやトマトなどのサラダ類が不調となったほか、ネギなどの薬味用野菜も動きが悪かった。前年豪雨により相場が高騰した野菜には単価下落の影響もみられた。相場の安定している土物や菌茸類は伸長した店舗もみられた。果物類は、特に落ち込みが大きく、前年好調とのスイカが不調で、桃やブドウも前年より出荷が遅れ、天候により品質も悪く不調であり、カットフルーツも動きが悪かった。

2.　水産 DI：-11.0（不調）

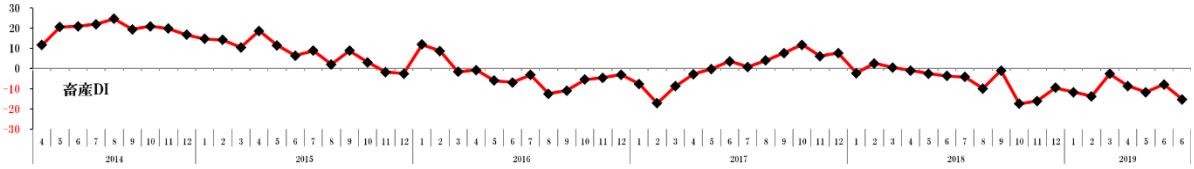
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	6.1	26.5	36.5	24.3	6.6	-0.3
水産（当月）	**12.6**	**39.6**	**29.6**	**15.7**	**2.5**	**-11.0**



27 日の土用の丑はうなぎの高騰や天候要因、資源保護意識の高まりで苦戦したとのコメントが多いが、予約販売を行い収益が改善した店舗もみられた。気温が上がらず、焼物や煮物の需要が高まり、切り身や干し物などの動きがよくなった。一方でまぐろを中心に刺身類は伸び悩んだ店舗が多かった。地魚や生魚の売り込み強化やイベント、催事の実施が成果をあげているとのコメントもみられた。

3.　畜産 DI：-15.3（不調）

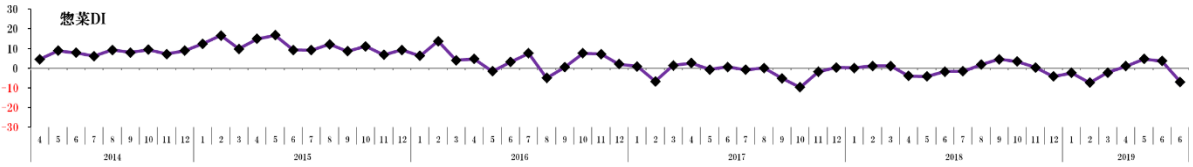
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	12.6	34.1	28.6	21.4	3.3	-7.8
畜産（当月）	**20.1**	**35.8**	**29.6**	**13.8**	**0.6**	**-15.3**



前年より低い気温や日曜日が一回少ない曜日めぐりの影響を受け、総じて低迷した。国産牛肉は価格が高騰しているため、輸入牛の動きがよかった。低温の影響かステーキ・焼肉用の動きが悪かった。国産豚肉は豚コレラの影響を受け相場が高騰し単価が上昇したものの、前年との気温差により冷しゃぶ用や生姜焼き用が伸びなかった。鶏肉は相場安で、販促を強化して好調となった店舗が多い。ハムを中心に加工肉は不調とする店舗が多い。

4.　惣菜 DI：-7.0（やや不調）

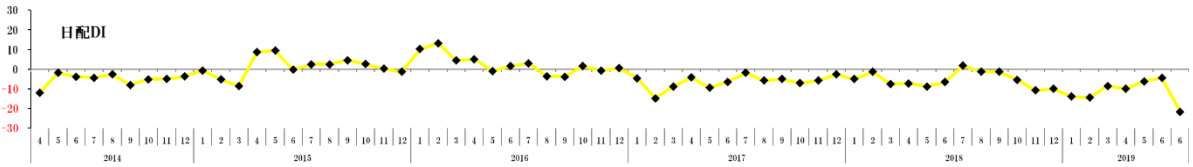
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.9	21.2	39.7	26.8	8.4	3.6
惣菜（当月）	**9.6**	**34.4**	**35.7**	**15.3**	**5.1**	**-7.0**



降雨による夕方以降の来客数減の影響を受けたほか、天候要因により米飯類、寿司類、麺類などの動きが悪かった。前年比較では中華惣菜や揚げ物、サラダ類は好調となった。土用の丑はウナギ価格高騰、資源保護意識の高まりにより前年並みかそれ以下にとどまった店舗が多い。新メニュー開発などが成果をあげている店舗もみられた。

5.　日配 DI：-21.5（かなり不調）

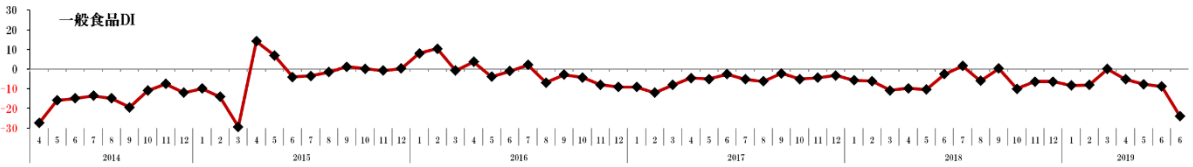
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.8	32.4	31.8	25.7	2.2	-4.5
日配（当月）	**29.6**	**35.8**	**26.4**	**7.5**	**0.6**	**-21.5**



前年より気温が低い影響で、アイスや飲料、チルド麺類などの涼味商材を中心に苦戦。漬物、こんにゃく、ところてんなど和日配も不調となった。一方で価格改定のあったヨーグルトや、暑さの影響を受けやすいパン類などは好調となった店舗もみられた。健康志向の高い豆乳など動きはよいが、熱中症対策として前年特需のあった梅干しや、豪雨により買い置き需要が発生し、冷凍食品に反動減がみられた店舗もあった。他業態との価格競争や天候にあわせた発注を課題にあげるコメントもみられた。

6.　一般食品：-23.9（かなり不調）

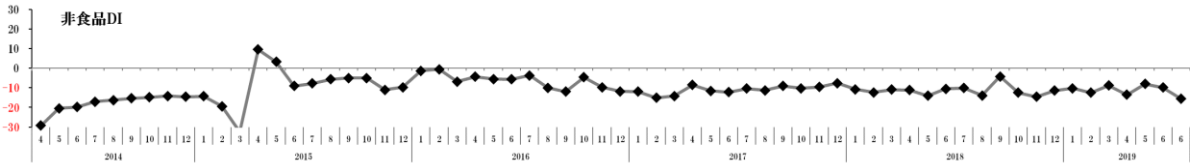
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.3	36.1	37.7	14.8	2.2	-8.9
一般食品（当月）	**31.6**	**38.0**	**25.3**	**4.4**	**0.6**	**-23.9**



前年との気温差により、そうめん関連などの涼味商材、飲料類や酒類は大きく売上を落とした。熱中症対策関連商品も反動減が大きくなった。反対に暑いと動きが鈍る菓子類やコーヒー類は、前年を上回った。新製品の登場が続いているインスタント麺類は好調となった店舗が多い。米類は価格競争が厳しく伸び悩んだ。気温が上がらず家庭内で調理する機運が高まったためか、油や調味料を好調にあげるコメントもみられた。ドラッグストアなどとの価格競争を指摘するコメントがみられた。

7．　非食品 DI：－15.7（不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.2	30.1	38.6	14.8	2.3	-9.8
非食品（当月）	**21.3**	**34.0**	**32.7**	**10.0**	**2.0**	**-15.7**



品薄状態となっている紙類は、欠品による売上低下を起こす店舗がみられた。夏物商材の殺虫剤・虫ケア用品や熱中症対策商品も動きが悪かった。電子タバコの売上が堅調とのコメントがみられた。

ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく、構成比を低下させている店舗も増えており、低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～-20　　かなり不調：　-20～

2019 年 8 月調査（7 月実績）キーワード TOP3

1．　梅雨時期のズレ、長梅雨（夏物・涼味の不調、販促のズレ）
2．　日曜日が一日少ない
3．　来客数減

（参考）2018 年 8 月調査（7 月実績）キーワード TOP3

1．　中旬以降青果相場高騰
2．　天候要因（豪雨・猛暑）
3．　土曜日が一日少ない

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

7 月実績速報版　　166 社
6 月実績確報版　　191 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp